

鹿児島県立大島北高等学校

奄美を担う次世代人材育成プロジェクト

～総探活動等の更なる充実を目指して～

1 学校の概要

(1) 本校の設置と沿革

本校は、世界自然遺産の島「奄美大島」の北部、奄美市笠利町に位置する。昭和 24 年 4 月に大島郡笠利村立実業高等学校として開校し、鹿児島県立大島実業高等学校笠利分校等の変遷を経て、昭和 44 年 4 月に鹿児島県立大島北高等学校として独立昇格した。本年度で独立創立 77 周年を迎える。

(2) 学科構成および定員

ア 普通科(定員 40 名)

進路実現に向けた学力向上を図るとともに、コース・科目選択制により情報処理関連の資格取得にも対応している。

イ 情報処理科(定員 40 名)

各種検定による資格取得を推進し、専門学校との連携により高度な専門教育を展開している。

(3) 生徒数(令和 7 年 12 月現在)

ア 普通科：1 学年 26 名，2 学年 27 名，3 学年 26 名(計 79 名)

イ 情報処理科：1 学年 22 名，2 学年 26 名，3 学年 19 名(計 67 名)

ウ 総計：146 名

(4) 教育理念および特色ある教育活動

校訓「自主好学の精神」「敬愛和協の態度」「積極敢為の気迫」のもと、「生徒一人ひとりが主役」となる教育を推進している。本校のスクール・ミッションとして、探究的な学びに主体的に取り組む態度や多様な進路・資格取得に対応した学力を身に付けさせ、郷土発展のために仲間と協働しながら課題解決に真摯に取り組む人材を育成する学校を目指している。その具現化に向け、総合的な探究の時間「アマン day」や「聞き書きサークル」等の地域連携型教育を柱とし、カヌー部や北大島太鼓部といった本校ならではの特色ある部活動を積極的に展開している。

2 事業の概要

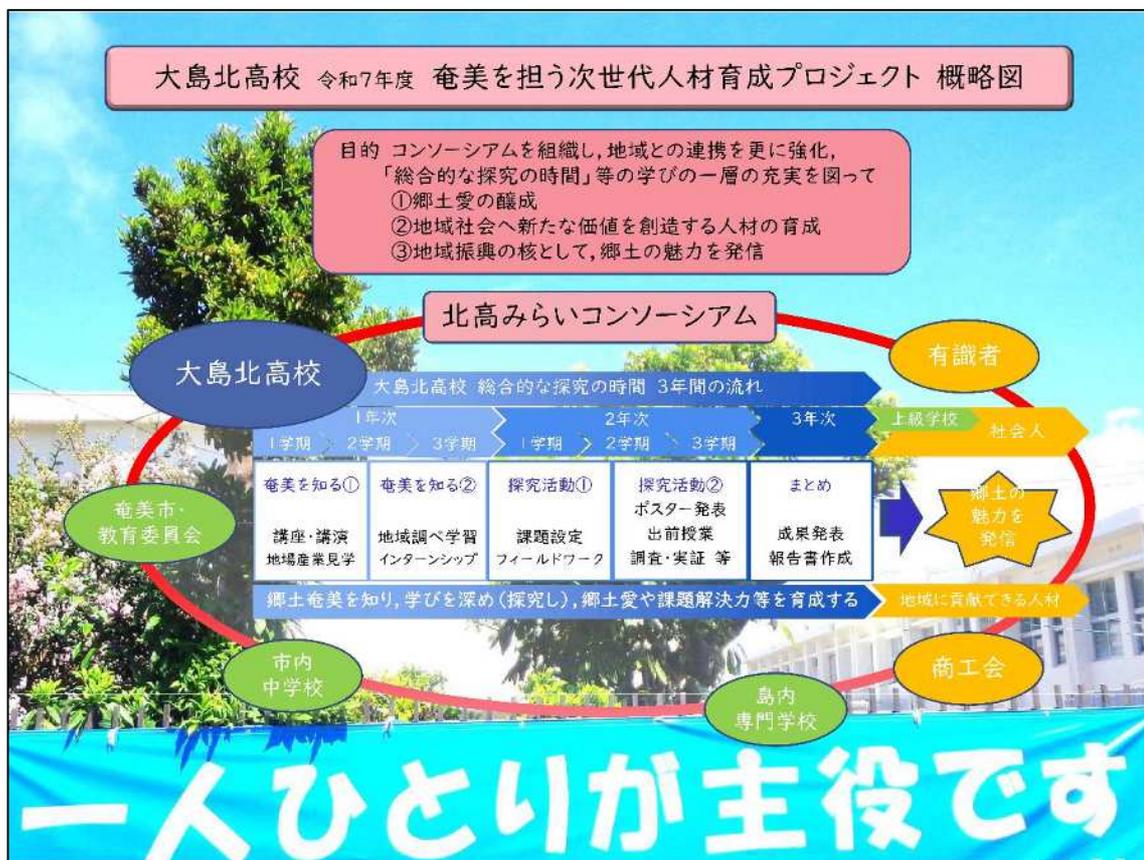
(1) 事業のねらいや目標

世界自然遺産の島である奄美大島は、豊かな自然や独自の文化等，多様な教育資源に恵まれている一方で，少子化の進展や進学・就職に伴う若年層の島外流出という構造的な課題を抱えている。これにより市内高校の志願者数の減少が続いており，学校の魅力減退のみならず，将来的な地域活力の低下が重大な懸念事項となっている。こうした背景を受け，地域共創

による高校の魅力向上と地域の活性化を両立させることを狙いとして、本校を事務局として行政、商工会、地域の専門学校及び中学校等が連携した産学官共同体「北高みらいコンソーシアム」を組織した。生徒が地域社会と多角的に関わる探究活動を通じ、主体性や協調性、課題解決能力といった実社会で求められる資質を養うとともに、郷土への深い愛着を醸成することで、将来的な島への人材の還流を促進することを目標としている。

令和7年度郷土教育推進事業では「奄美を担う次世代人材育成プロジェクト～総探活動等の更なる充実を目指して～」として、本校が実施している総合的な探究の時間「アマン day」の充実を図った。「アマン day」では、1学年次の奄美を知る奄美学講座や地場産業見学から始まり、2学年次のフィールドワークを伴う探究活動、そして3学年次の成果発表・報告書作成へと至る3年間を見通した体系的なプログラムを展開している。これらの活動を通じ、生徒が郷土資源との関わりから学びを深め、課題解決力や協調性を磨くことで、将来的に地域社会の発展に寄与し、奄美大島への人材の還流を担い、地域に貢献できる人材の育成と、地域に選ばれる学校づくりの推進を図った。

(2) 事業のイメージ図



3 事業の経過

日	内 容	参加者
4 月		
16日	・オリエンテーション(探究課題の設定について)	2 学年
23日	・オリエンテーション(本校の探究活動について)	1 学年
5 月		
7 日	・奄美学講座①「奄美と IT」	1 学年
14日	・奄美学講座②「奄美の地域づくり活動」	1 学年
21日	・奄美学講座③「奄美の歴史」	1 学年
28日	・奄美学講座④「奄美の自然・環境」	1 学年
6 月		
4 日	・奄美学講座⑤「奄美の文化」	1 学年
	・課題設定検討会	2 学年
11日	・奄美学講座⑥「奄美の農業」	1 学年
	・オリエンテーション(フィールドワークについて)	2 学年
18日	・奄美学講座⑦「奄美の産業」	1 学年
20日	・探究力向上セミナー①	2 学年有志
7 月		
4 日	・「アマン day」成果発表会	全学年
29日	・フィールドワーク①	2 学年
30日	・フィールドワーク②	2 学年
8 月		
4 日	・探究力向上セミナー②	2 学年有志
21日	・令和 7 年度郷土教育推進事業～地域を担う次世代人材育成プロジェクト～「スキルアップセミナー」	2 学年有志
9 月		
10日	・地場産業見学	1 学年
14日	・産学官連携地域特産品創出プログラム①	1・2 学年有志
15日	・産学官連携地域特産品創出プログラム②	1・2 学年有志
16日	・産学官連携地域特産品創出プログラム③	1・2 学年有志
24日	・オリエンテーション(テーマ学習について)	1 学年
27日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業①	2 学年有志
10 月		
1 日	・ポスター発表会	全学年
16日	・赤木名中学校出前授業	2 学年有志
17日	・探究力向上セミナー③	2 学年有志
29日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業②	2 学年有志

11月		
19日	・テーマ学習発表会	1学年
12月		
7日	・かざりまるしえ	1・2学年有志
16日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業③	2学年有志
17日	・奄美群島オープンデータ利活用啓発事業に係る出前講座「オープンデータから探る地域課題」	1学年有志
1月		
14日	・高校生探究コンテスト	2学年有志
23日	・職業人座談会	1学年
19日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業④	2学年有志
2月		
4日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業⑤	2学年有志
15日	・高校みらいコンソーシアム成果発表会	2学年有志
21日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業最終発表会	2学年有志
3月		
7日	・SDGsクエストファイナルセレモニー	2学年有志
8日	・あまみ FOOD フェスティバル	2学年有志
17日	・高校生サミット IN 奄美 2026	2学年有志

4 事業の内容

(1) 探究学習の流れ

ア 1学年次…「奄美を知る」

1学年次は、地域理解を通じた探究基礎の修得を図る。1学期の「奄美学講座」や地場産業見学（図1・2）等の知見をもとに、2学期より「奄美と私」をテーマとした個人研究を実施する。生徒自ら課題を設定し、調査・分析を経て、テーマ学習発表会で成果を発表することで、探究の基礎的技法を習得する。これらは2学年次の共同探究への準備段階であり、3学期の職業人座談会等と併せ、地域社会への理解と自己の進路実現を深めることを目的とする。



図1 町田酒造の見学の様子



図2 マングローブパーク見学の様子

イ 2学年次…「奄美を探究する」

2学年次は、前年の学びを生かして地域課題の解決に具体的に取り組むサイクルを実施する。地域が抱える現状と理想の差から、自分たちで解決すべき課題を班ごとに設定し、夏にはインタビューや観察といったフィールドワーク（図3・4）を行い、地域に出向いて情報を収集する。持ち帰った情報を、グラフ化や比較を通じて客観的に分析し、課題の解決策を検討しポスターにまとめ、ポスター発表会で発表する。地域の方々と関わりながら自分たちの答えを創り出すことで、社会を動かす主体的な姿勢と、考えを論理的に伝えるプレゼンスキルを養うことを目的とする。



図3 フィールドワークの様子①



図4 フィールドワークの様子②

ウ 3学年次…「探究の成果を発信する」

3学年次では、2学年次から継続してきた探究活動を完結させる。これまでの調査結果や提言をまとめ、7月の成果発表会で来賓やフィールドワーク関係者、地域の方々へ向けて、全ての班がプレゼン発表を行う（図5・6）。発表後は活動全体を振り返り、指定された形式で「探究報告書」を作成する。3年間の学びを自分の言葉で整理し、課題解決能力を確かなものにする。



図5 成果発表会の様子①



図6 成果発表会の様子②

(2) 外部との連携（今年度実施分）

ア 奄美学講座（1学年：7回実施）

1学年を対象に、奄美大島の現状を多角的に理解するための「奄美学講座」を計7回実施した（表1）。講座では、IT、歴史、自然環境、文化など、各分野の第一線で活躍する講師を招き、地域活性化の取り組みや現状について話を聴いた。生徒は聴講後、振り返りシートを記入するこ

とで自身の考えを整理し、今後の探究活動の方向性を探る貴重な資料とした。

表1 奄美学講座講師一覧

講座名	講師名（所属）
奄美とIT	勝眞一郎（サイバー大学教授）
奄美の地域づくり活動	羽利英治（NPO 法人ゆいむすび実行委員会）
奄美の歴史	喜友名正弥（奄美市立奄美博物館）
奄美の自然環境	鈴木真理子（奄美野生生物保護センター）
奄美の文化	渡陽子（あまみエフエム）
奄美の農業	林晋太郎（合同会社 AMAMI バリュープロデュース）
奄美の産業	本場奄美大島紬協同組合青年部（奄美群島地域産業振興基金協会）

イ 課題設定検討会（2学年：令和7年6月4日）

2学年を対象に、各班が検討してきた探究課題について、地域の専門家や有識者から助言を受ける「課題設定検討会」を実施した（表2）。奄美市役所の各支所や保存会など、実務に携わる方々から専門的な知見を得たことで、課題の絞り込みや方向性の修正を的確に行うことができた。この検討会を経て、各班は探究課題を再度設定し、次のステップであるフィールドワークの計画立案へとつなげた。

表2 課題設定検討会参加団体一覧

班	探究課題	参加団体
産業①	コーヒー	奄美市笠利総合支所農林水産課
産業②	伝統野菜	奄美市笠利総合支所農林水産課
産業③	さとうきび	奄美市笠利総合支所農林水産課
産業④	ふるさと納税	奄美市名瀬総合支所プロジェクト推進課
自然環境	固有種	奄美市住用総合支所地域教育課 奄美市名瀬総合支所世界自然遺産課
観光	情報発信	奄美市笠利総合支所産業振興課
伝統文化	シマ唄	赤木名八月踊り保存会

ウ フィールドワーク（2学年：令和7年7月29日・30日）

2学年の各班が、自ら選定した訪問先でフィールドワークを実施した（表3）。アポイントメントの取得から日時調整までを生徒自身で行い、1班あたり2～3カ所を訪問した。現地での見学やインタビューを通じて、写真撮影や体験を行い、一次情報に触れることで多くの有益な情報を得た。地域の協力的な姿勢に触れることで、生徒の探究活動に対する意欲もさらに高まった。

表3 フィールドワーク訪問先一覧

班	探究課題	フィールドワーク先
産業①	コーヒー	栄農園，豆と麦，奄美伍郷商店
産業②	伝統野菜	奄美市佐仁集落
産業③	さとうきび	サトウキビ受託組合，奄美大島雇用創造協議会，奄美市笠利総合支所農林水産課
産業④	ふるさと納税	龍郷町観光企画課，原永ファーム，豆と麦，栄食品工業株式会社
自然環境①	固有種	手花部干潟
自然環境②	資源管理	奄美漁業協同組合，宇検村漁業協同組合
観光	情報発信	奄美パーク，味の郷かさり，ばしや山村，大浜海浜公園，奄美市役所，龍郷町役場
伝統文化	シマ唄	シマ唄の唄者，指導者にインタビュー

エ 探究力向上セミナー（2学年有志：3回実施）

鹿児島県教育庁が主催する「未来を切り拓く！新時代に対応した資質・能力育成推進事業」の県立高校探究リーダー育成プログラムに2学年の生徒4名が参加した（図7）。セミナーを通じて，課題の深掘り方法や具体的な探究手法，スライド発表等の表現技術を学んだ。また，他校の生徒とのディスカッションや進捗報告を行い，刺激を受けるとともに，本土の生徒には，まだ知られていない奄美大島の資源の豊かさを再認識する機会となった。参加生徒がリーダーとなり，学んだ内容を各班の活動へ還元することが期待される。



図7 セミナーの様子

オ 産学官連携地域特産品創出プログラム（令和7年9月14日～16日）

株式会社ロッテ，株式会社 RePlayce，および奄美市プロジェクト推進課が連携して実施する「地域特産品創出プログラム」（図8）に，1・2学年の有志生徒13名が参加した。本プログラムは，本校のほか大島高校，奄美高校の生徒が参加し，学校の枠を超えた混成チームで取り組む課題解決型学習である。生徒たちは，ロッテの社員からお菓子の商品開発プロセスについて講義を受けた後，奄美大島内の製造会社を見学した。その後，地域の資源を活用した新しいお菓子のアイデアをチームで検討した。最終日に



図8 募集要項

は奄美市役所にてプレゼンテーションを行い、自分たちの考案したビジネスプランを提案した。企業や行政と直接関わりながら、実際の社会課題に基づいた商品開発の流れを体験したことは、生徒にとって「地域資源を価値に変える」視点を養う貴重な機会となった。

カ かごしまアントレプレナーシップ養成事業（2学年有志：3回実施）

鹿児島県商工労働水産部産業立地課新産業創出室スタートアップ支援係が主催する「かごしまアントレプレナーシップ養成事業」に2学年の生徒3名が参加し、ビジネスモデル構築のプロセスを学んだ。地元企業の奄美養蚕株式会社やJAL プラザ奄美大島空港店の協力を得て、「桑の実（マルベリー）を使用した商品開発」に向けたフィールドワークや市場調査を実施した。得られた情報をもとに、アイデアを具体的なビジネスモデルへと昇華させる過程を体験した。2月の最終発表会で、審査員や協力企業に向けてプレゼンテーションを行い、最優秀賞（中高生の部）を受賞した。

キ かさりまるしえ（2学年有志：令和7年12月7日）

奄美市笠利総合支所農林水産課が主催する「かさりまるしえ」に参加し、2学年の2つの班が探究活動の内容をプレゼンテーションした。2学年の他の生徒は、今後の活動の参考資料とするためのアンケート調査を実施した（図9）。地域の住民から直接、助言や励ましの言葉をいただいたことで、自分たちの活動への関心を高めることができた。また、地域社会への発信を通じて、本校の探究活動への理解を広める機会となった。



図9 アンケート調査の様子

ク 奄美群島オープンデータ利活用啓発事業に係る出前講座（1学年）

奄美市が主催する「奄美群島オープンデータ利活用啓発事業」として、1学年を対象に、サイバー大学の勝眞一郎教授を講師に招き、オープンデータの利活用に関する出前講座を実施した（図10）。地域の現状と課題に対し、データを活用してどのように解決を図るかという具体的な事例を学んだ。これは生徒の情報活用能力の向上に資するだけでなく、今後の探究活動において客観的な根拠に基づいて考察を進めるための基礎的知識となった。

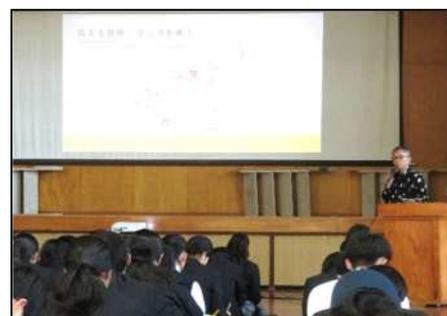


図10 出前講座の様子

ケ 上記以外にも、定期的に鹿児島大学教育学部中野技術指導員やサイバー大学勝眞一郎教授、奄美市笠利支所の方々等から、各探究班へ指導していただいた。

(3) 各発表会（令和7年度実施分）

ア 「アマン day」成果発表会（全学年）

3学年がこれまでの探究活動の成果を発表する『「アマン day」成果発表会』を、奄美市笠利農村環境改善センターで実施した。3学年の7つの班がスライドを用いて発表を行い（表4）、全校生徒や来賓，フィールドワーク協力者，地域住民がその発表を視聴し，本校の探究活動の成果を地域へ広く発信する貴重な機会となった。また，1・2学年の生徒にとっては探究活動の手本となるだけでなく，先輩から課題を引き継ぐための重要な情報共有の場としても機能した。

表4 発表タイトル一覧

班	発表タイトル
産業①	奄美の観光～交通の課題～
産業②	奄美の食文化に名を刻む～隠れた万能桑～
産業③	古き良きベジタブル
自然環境①	手花部地域の大切な遺産を守るために
自然環境②	未来へ残そうシマの宝～奄美の固有種を守るために～
自然環境③	プラごみ活用で海岸を救う！～海を未来へ繋ぐ～
伝統文化①	わんきゃでシマユムタを広めようディ！ ※わたしたちで島口（奄美方言）を広めよう！
伝統文化②	奄美の黒糖に学ぶ～受け継がれる技と味～

イ ポスター発表会（全学年）

2学年が課題設定検討会やフィールドワークで得た知見に基づき，各班の探究課題とこれまでの進捗をまとめたポスターを作成し，発表会を行った（表5）。全校生徒や教職員に加え，地域の方々の前で自分たちの活動を説明した。質疑応答の時間には，地域住民から積極的な質問や専門的な情報の提供があり，生徒が今後の探究活動をさらに深めるための良い刺激となった。

表5 発表タイトル一覧

班	発表タイトル
産業①	奄美産コーヒーを用いた体験型プログラムの開発
産業②	伝統野菜（にんじん，だいこん）の普及
産業③	さとうきび農家を増やすには
産業④	ふるさと納税の納税額を増やすためには
自然環境①	手花部のマングローブに生息するシオマネキについて
自然環境②	トビンニャの漁獲量減少の対策について
観光交通	観光地の情報発信について
伝統文化	シマ唄の普及

ウ テーマ学習発表会（1学年）

1学年を対象に「テーマ学習発表会」を開催した（図11）。「奄美と私」というテーマで各自の興味や地域課題を調査し、結果をまとめ、生徒間で発表し合った。一連の活動を通じて地域への関心が高まっている生徒が多く、充実した発表会となった。2学年での活動に向けて、情報の収集・活用能力や表現力を養う機会となった。



図11 テーマ学習発表会の様子

エ 高校生探究コンテスト（2学年有志）

鹿児島県教育庁高校教育課が主催する「高校生探究コンテスト」が1月14日（水）に開催され、本校から4つの班の代表者が参加し、スライド発表の部で2つの班が優良賞を受賞することができた（表6）。

表6 受賞タイトル一覧

発表タイトル	受賞
『島人化計画』～わくわくいっぱいなリーフレット教材作成への軌跡～	社会科学部門優良賞
なぜ手花部干潟には多様なシオマネキが生息しているのか？	自然科学部門優良賞

5 事業の成果とその評価

(1) 課題解決の状況

地域課題の解決に向けた提案を外部へ発信する機会を数多く設けることができ、地域の方々と協力して課題を共有するプロセスは着実に定着している。一方で、それらの提案が実際の具体的な解決策として社会に実装されるまでには至っておらず、現状では「提案」の段階に留まっているものが多い。今後は、提案をいかにして実効性のあるアクションへと繋げていくかが、本活動のさらなる深化に向けた課題である。

(2) 評価

ア 地域の活性化，課題解決

活動の様子が地元の新聞記事に頻繁に取り上げられ、地域住民から「北高はいろいろな活動を頑張っている」と直接声をかけられる機会が増えた。自治体や地元企業も本校の活動に非常に協力的であり、学校と地域が一体となって課題に向き合う土壌が育っている。特に「アマン day」などの発表の場に主体的に参加する生徒も多く、地域社会における本校の存在感と、活性化への寄与は高まっていると評価できる。

イ 人材育成

総合的な探究の時間「アマン day」を通じた生徒の資質・能力の変容を検証するため、全生徒を対象としたアンケート（表7）を実施した（令和8年1月8日）。回収された127名の回答データを、4点満点（「とてもそう思う：4点」「そう思う：3点」「あまり思わない：2点」「思わない：1点」）でスコア化し（表8）、学年ごとの成長段階を分析した。

表7 アンケート項目と測りたい資質・能力

アンケート項目	資質・能力
1 「アマン day」を通じて、奄美大島の文化・自然・社会について、より深く知ることができましたか？	郷土への理解
2 「アマン day」を通じて、奄美大島に対する愛着や誇り（郷土愛）が大きくなりましたか？	郷土愛
3 「アマン day」を通じて、自分たちの力で奄美大島をより良くしたいという意欲が高まりましたか？	社会参画意識
4 課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめといった「探究型学習」の手順を理解し、実践できましたか？	探究型学習の方法の理解
5 身の回りの出来事や社会に対して、自分なりに課題や疑問を見つけ出す力が身についたと感じますか？	課題発見力
6 課題解決のために必要な情報を集め、それらを整理・分析する力が向上しましたか？	情報活用能力
7 自分の考えや調査結果を分かりやすくまとめ、他者に伝える力が身につきましたか？	表現力
8 クラスメイトやグループのメンバーと協力し、役割を果たしながら活動できましたか？	協働性

表8 項目別・学年別平均スコア n=127

	1 学年	2 学年	3 学年	全体平均
設問 1	3.24	3.42	3.64	3.43
設問 2	3.12	3.30	3.55	3.32
設問 3	3.05	3.28	3.52	3.28
設問 4	2.88	3.26	3.48	3.21
設問 5	2.95	3.33	3.57	3.28
設問 6	2.90	3.35	3.62	3.29
設問 7	3.02	3.40	3.69	3.37
設問 8	3.36	3.51	3.74	3.54

取組の大きな成果として、学年が進むにつれて全ての資質・能力が着実に向上している点が挙げられる。特に設問6（情報活用能力）と設問7（表現力）の伸びが顕著である。1学年では設問7が3.02と情報の扱い方に戸惑いが見られたものの、3学年では3.69とスコアが大幅に伸びており、3年間の継続的な学習が、情報活用能力や表現力の育成に極めて有効に機能したと評価できる。これは、単なる知識の習得にとどまらず、実社会の課題を解決するための「具体的な手法」を生徒が身につけたことを示している。

全項目の中で最も高いスコアを記録したのは設問8（協働性）であり、全体平均3.54、3学年では3.74という最も高いスコアとなった。本事業のグループ活動を通じて、多様な意見を調整し、役割を分担しながら共通の目標に向かう「協働的な学び」が深く浸透していることがわかった。この資質は、将来社会のあらゆる場面で求められる汎用的な能力であり、人材育成の観点から非常に大きな成果が得られた。

また、設問1（郷土への理解）と設問2（郷土愛）のスコアの伸びが、設問3（社会参画意識）の大幅な伸びに結びついていると考えられる。地域の現状を深く知ることが、単なる愛着を超えて「自分たちがこの地域を支えていく」という当事者意識の醸成に結びついていることがデータから裏付けられた。

ウ その他

生徒の意欲向上についても顕著な成果が見られた。県主催のセミナーや外部のコンテストに挑戦する生徒数が昨年度よりも増加しており、校外の刺激を自身の探究活動に取り入れようとする積極性が育まれている。また、近隣の中学校への出前授業を実施したことは、中学生に対して本校の魅力を発信するだけでなく、高校生自身の自己有用感や表現力の向上に大きく資する取組となった。

6 今後の課題

(1) 活動環境とリソースの制約

本校は離島の小規模校であり、地域に大学や専門の研究機関のような高度な研究設備が整っていない。そのため、専門性の高い実験や分析を行うには限界がある。また、フィールドワークや島外での交流活動の際には生徒の移動経費が大きな負担となっており、限られた予算内で活動の質を維持・向上させることが恒常的な課題となっている。

(2) 成果の還元と評価の可視化

これまでの探究活動の成果が、大学入試等の進路実現において具体的な実績として十分に結びついていない現状がある。探究活動で得た能力を、いかにして志望理由書や面接等の入試プロセスで強みとして活用させるかが今後の焦点である。

(3) 事業終了後の取り組みの継続を見据えた工夫

ア 探究課題の「継承」による活動の深化

単年度で活動を完結させるのではなく、前年度の調査結果や課題を次年度の生徒が引き継ぐ「課題の継承」を意識した指導を行っている。これにより、研究がゼロからのスタートにならず、より深い考察や具体的な実践へとつなげることが可能となっている。

イ 学年・学校種を越えた垂直的・水平的な連携

学年ごとの活動に留まらず、全学年が交流する発表会を設けるなど、学年を越えた協働の機会を増やしている。さらに、中学校への出前授業や中高合同の探究活動を計画しており、地域全体で探究活動の質を底上げする体制を構築している。このような連携は、本校に対する中学生の理解を深め、将来的な魅力度向上と入学者確保に資する取組として継続していく。

7 協働先一覧

No	協働先	所在地	主な内容
(1)	奄美市笠利総合支所	奄美市	・講師派遣 ・フィールドワーク
(2)	奄美市役所	奄美市	・講師派遣 ・フィールドワーク
(3)	奄美市住用総合支所	奄美市	・講師派遣
(4)	龍郷町観光企画課	龍郷町	・フィールドワーク
(5)	奄美漁業協同組合	奄美市	・フィールドワーク
(6)	宇検村漁業協同組合	宇検村	・フィールドワーク
(7)	サイバー大学	福岡市	・講師派遣
(8)	NPO 法人ゆいむすび実行委員会	龍郷町	・講師派遣
(9)	奄美市立奄美博物館	奄美市	・講師派遣
(10)	奄美野生生物保護センター	奄美市	・講師派遣
(11)	あまみエフエム	奄美市	・講師派遣
(12)	合同会社 AMAMI バリュースプロデュース	奄美市	・講師派遣
(13)	本場奄美大島紬協同組合青年部	奄美市	・講師派遣
(14)	赤木名八月踊り保存会	奄美市	・フィールドワーク
(15)	栄農園	奄美市	・フィールドワーク
(16)	豆と麦	奄美市	・フィールドワーク
(17)	奄美伍郷商店	奄美市	・フィールドワーク
(18)	原永ファーム	奄美市	・フィールドワーク
(19)	サトウキビ受託組合	奄美市	・フィールドワーク
(20)	栄食品工業株式会社	奄美市	・フィールドワーク
(21)	奄美パーク	奄美市	・フィールドワーク
(22)	合同会社味の郷かさり	奄美市	・フィールドワーク
(23)	奄美リゾートばしゃ山村	奄美市	・フィールドワーク
(24)	町田酒造株式会社	奄美市	・地場産業見学
(25)	黒潮の森マングローブパーク	奄美市	・地場産業見学
(26)	鹿児島県教育庁高校教育課	鹿児島市	・スキルアップセミナー
(27)	鹿児島県商工労働水産部産業立地課	鹿児島市	・アントレプレナー シップ養成事業
(28)	赤木名中学校	奄美市	・出前授業
(29)	鹿児島大学教育学部	鹿児島市	・フィールドワーク

